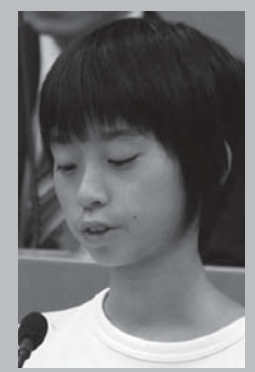


「函南町の将来」について

児童生徒や学生など11人が意見

10月15日、函南町役場で「平成28年度函南町次世代議会」が行われました。

「次世代議会」は、町民の皆さんの意見を第六次総合計画（平成29年度～平成38年度）に反映させていく一環として、児童生徒や学生など11人から議会形式で意見を伺いました。各次世代議員の質問内容と回答（※質問内容、回答内容を一部省略して掲載）を紹介しますのでご覧ください。



向田 愛惟 議員
(函南小6年)

子どもから高齢者が歩いていける町の中心部に公園はつくれるのか

町の中心部に、子どもから高齢者までが歩いていける公園が必要だと思います。高齢者が使える健康遊具を設置したり、見通しのいい場所に子ども向けの遊具を作ったりして、高齢者が体を動かしたり、お母さんが安心して子どもを遊ばせられるようにしてほしいです。

〈回答者〉町長

公園は町民の生活に元気や潤いを与える大切な施設で公園整備は、まちづくりの観点からとても重要だと考えています。土地の確保は難しい問題ですが、間宮児童公園の隣接地の東駿河湾環状道路高架下に公園を整備したように、公共用地を活用し整備を進めます。なお、整備中の道の駅の隣に川の駅をつくる計画があり、そこに芝生広場を設置する予定です。ぜひご利用ください。いただいた提案は、公園の利用者として子どもだけでなく高齢者にも目を向けてとても素晴らしいと思います。子どもから高齢者まで、誰もが元気に仲間と集い、運動できる環境を整えることが大切だと考えます。



神尾 柚子 議員
(丹那小6年)

丹那に「町営大学」をつくり、関係する施設を充実させることで、無限の可能性が広がり、函南町の発展につながる

丹那に町営の大学をつくることを提案します。大学で酪農や農業の研究をして、スイーツや料理を開発し、おいさを発信することで、丹那の食材の魅力が広く伝わると考えます。大学によって函南町を訪れる人が増え、にぎやかな町になると思います。丹那に町営の大学をつくることについてどう考えますか。

〈回答者〉町長

夢のある提案だと思います。丹那には酪農や農業、ジオサイトなど貴重な資源があります。これらを生かし、今ある地域の施設（丹那小、オラッチェ）を中心に、にぎわいをつくるのが大切です。施設や学校と連携し、丹那牛乳関連の商品や箱根西麓野菜を販売して農業の6次産業化と産業振興を図るとともに、丹那地区のジオサイトをPRし観光振興を図り、丹那地域全体を発展させることを目指します。費用面や経営が成り立つかは大きな課題ですが、丹那地域の発展という目標の先に、大学や専門学校の誘致・創設が叶えば素晴らしいことだと考えます。



田中 公介 議員
(桑村小6年)

かなみ仏の里美術館や歴史的な場所への案内看板の設置やバスツアーの計画について

桑原にはたくさんの史跡があります。観光客から「看板が少なく仏の里美術館に行きづらい」と聞き、観光客に親切なまちづくりをして、もっとたくさんの人に桑原を知ってもらいたいと思いました。

仏の里美術館の看板を増やしたり、桑原の史跡を巡るバスツアーを行ったりすることはできますか。

〈回答者〉町長

仏の里美術館は、観光バスが訪れるようになり入館者数が10万人を達成しました。看板の設置を計画的に進めていますが、まだ不十分かもしれません。今後も多くの人を訪れることを期待して整備を行いたいと思います。ツアーは、美術館主催のウォーキングや来館者へのコースの案内など、ウォーキングの普及に取り組むと同時に町内のジオサイトや文化財を巡るタウンウォッチングを実施しています。東駿河湾環状道路や圏央道の完成により交流人口が増加しています。わかりやすくスムーズに目的地へ行けるように「もてなしの心」で観光コースの整備に努めます。



石井 渚紗 議員
(東小6年)

ごみの削減について（各家庭および1人ひとりが出す燃えるごみの量を減らすための呼びかけや手段）

人口の減少に対してごみは増え続けています。このままでは10年後、ごみが散らかっている町になるかもしれません。①人口が減少しているのにごみが増えている。②町民1人あたりのごみ排出量が県や国の平均を上回っている。③資源化できるごみの割合が減っている。この3つについてどう考えますか。

〈回答者〉町長

①平成21年度から1人あたりのごみの排出量が増加しています。原因は事業所ごみ、特に生ごみの増加が挙げられます。②国や県の平均を上回っている理由も同様です。現在「もったいない、さらに1割ごみ削減運動」を展開し、10年先を見据えてごみの削減に取り組んでいます。③資源ごみの減少は、役場の収集だけでなく、民間の事業者も収集を行っていますので、町全体で循環型社会をつくっていければ良いのではないかと考えます。将来にわたって美しくきれいな町を維持していくことは重要な問題であると考えています。



芹澤 林太郎 議員
(西小6年)

富士山が見える展望台と函南町の名物をつくって町おこしについて

函南町の知名度が低いのは、名所や名産品が少ないからだと思えます。そこで富士山が見えることを生かして展望台をつくり、眺望スポットをまとめてはどうでしょう。町のジオフードを開発して売るのがいいと思います。町の知名度を上げ、町外の人も心休まる、わくわくする町にしたいです。

〈回答者〉町長

整備中の道の駅・川の駅は、函南町へ訪れた観光客が「伊豆の富士山」を望める最初の施設で、2つの施設を繋ぐ展望歩道橋からの富士山の眺望は絶景です。ただ富士山が見えるというだけでなく、道の駅では地域ブランドの商品を販売したり、ジオフードを開発・販売したりして、産業振興を図っていきます。また、2020年の東京オリンピックで、伊豆市が自転車競技の開催地となることを好機としてPRしていきます。道の駅の他にも、十国峠、役場庁舎の7階などから、富士山の絶景を望むことができます。お勤めのビューポイントをまとめた町独自のパンフレットの作成を検討したいと思います。

問合せ／企画財政課 (979-8101)

